



施 策

9 文化財の保存と活用

施策の柱

(1) 文化財の保存と活用

細施策

①文化財の保存と活用の推進

■ 現状と課題

- 時の鐘や蔵造りに代表される建造物、川越氷川祭の山車行事などの民俗文化財、河越館跡や山王塚古墳のような史跡など、多岐にわたる多くの指定文化財を保有しています。中でも旧城下町やその周辺に分布する文化財は広く周知されています。
- 周知が不十分な文化財については、わかりやすい情報発信が必要です。また、文化財の保存修理や維持が、所有者や管理者の経済的負担となっていることや、人口減少、技術者の高齢化等により難しくなっているため、後世への継承を図るための支援が必要です。

■ 細施策の方向性

担当課

文化財保護課

- 貴重な歴史的財産である文化財を後世に残し、伝えていくために、文化財調査等の実施を通して隠れた貴重な文化財を見だし指定します。
- 文化財の公開・活用に向けた体制を整えるとともに、文化財の価値や魅力を知る機会の提供として、デジタル技術を積極的に活用した情報発信を推進します。
- 所有者が適切な保存・活用、継承を図れるよう支援するとともに、市所有の指定等文化財の保存・活用を計画的に進めます。

細施策の指標

指標	説明	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
文化財情報発信件数(件)	市公式ホームページやSNS等を活用し、指定文化財等の情報発信を推進します。	21	30

※史跡：貝塚・古墳・都城跡・旧宅等の遺跡で、歴史・学術上価値が高く、重要なもの。国や自治体によって指定される。

②無形民俗文化財の保存と後継者の育成

■ 現状と課題

- 指定文化財については、後継者養成のための活動や使用する道具類の修理などの費用に対し補助金を交付し、道具の修理については技術的な指導・助言を行っています。また、文化財の記録保存のため、年1件のペースで行事全体の映像撮影を行っています。
- 文化財の保持団体（保存会等）では、参加者の減少や少子高齢化等の影響のため、地域の伝統行事や民俗芸能の継承への援助や、道具・衣装の保存修理などの費用に対する支援が必要です。

■ 細施策の方向性

担当課

文化財保護課

- 民俗芸能の後継者養成、祭礼行事の保存等、適切に補助金を保持団体へ交付していきます。
- 特に、継承が難しくなっている民俗芸能、祭礼行事について、各団体が抱える課題を把握するとともに、対応策の検討を図ります。

細施策の指標

活動指標	説明	現状値(令和6年度)	令和12年度
後継者養成事業実施団体数(件)	民俗芸能、祭礼行事の後継者養成・保存事業について、市費補助金を交付した保持団体の件数	【保持団体への市費補助金の交付】 19団体程度実施	

③重要伝統的建造物群保存地区の保存整備事業の充実

■ 現状と課題

- 保存地区の維持保全のため、所有者の修理要望を把握し、適切な時期に修理を実施しています。また、地域関係者と連携して歴史的風致※を継承し、支える仕組みを構築しています。
- 保存地区の維持保全のため、継続して適切な時期に修理を実施するとともに、官民連携による保存技術の継承や担い手の確保等を推進する必要があります。

■ 細施策の方向性

担当課

都市景観課

- 伝統的建造物の現状把握に努め、修理等を計画的に推進します。
- 保存地区の防災対策として、地元主催の防災訓練を支援して防災意識の向上を図ります。
- 伝統的建造物の保存技術の継承や担い手の確保に向けて、文化財の価値や魅力に関する多様なアプローチ手法による情報発信を推進します。

細施策の指標

指標	説明	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
伝統的建造物の復原等修理費への助成件数(件)	蔵造りの町並みを市民や来街者が歩いて体感できるよう実施した伝統的建造物の復原等修理費助成の累計件数	310	360



川越市川越伝統的建造物群保存地区
の町並み



防災訓練の様子

※歴史的風致：地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動と、その活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地が一体となって形成してきた良好な市街地の環境のこと。

④河越館跡の整備・活用

■ 現状と課題

- 史跡の計画的な保存と活用を図るため、令和6年度末に「史跡河越館跡保存活用計画」を策定し、史跡内に残る市道の廃止及び代替道路の新設を含めた外周整備工事を行いました。現在は今後の整備の方針を検討する第2期整備基本計画策定作業を進めています。
- 史跡の周知のため、河越流鏑馬の実施や史跡見学会等の普及・活用事業を定期的の実施するとともに、地域住民等へ史跡の魅力を伝える機会が必要です。

■ 細施策の方向性

担当課

文化財保護課

- 河越館跡については、郷土学習の場、市民の憩いの場としての史跡公園を目指し、第2期整備基本計画策定を進め、地域住民や民間団体等と連携、協働した史跡の活用について検討を図ります。
- 地域住民等の史跡への理解を深め、史跡としての魅力を発信するために、河越館跡をテーマにした講座や見学会等を開催します。

細施策の指標

指標	説明	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
河越館跡史跡公園整備事業進捗率(%)	史跡公園整備完了を100とした場合の整備の進捗率(第2期整備の基本計画、基本設計、実施設計、史跡公園整備工事等)	48.7	55.8

※史跡河越館跡保存活用計画：国指定史跡の河越館跡について、所有者・管理団体等が作成する保存・活用の考え方や具体的な取組の内容を定めた基本的な計画。

⑤山王塚古墳の整備・活用

■ 現状と課題

- 令和 5 年 3 月の国史跡指定後は川越市が保存管理団体となり、史跡を良好に維持するため
の下草や樹木の伐採等、定期的に管理を行っており、河越館跡と隔年で周知のための説明会
等を実施しています。また、史跡を保存しながら活用していくための保存活用計画の策定作
業を行っています。
- 現状では大半が民有地であり、土地の公有化が必要であるとともに、史跡指定範囲の拡大も
含めた検討が必要です。

■ 細施策の方向性

担当課

文化財保護課

- 国内で最大規模の上円下方墳である山王塚古墳について、未来に伝えるべき貴重な文化財と
して早期に史跡の保存活用計画を策定します。
- 見学者の利用に支障がないように山王塚古墳の環境を適切に保ちつつ、史跡としての魅力を
発信するための各種見学会や説明会を定期的に開催します。
- 史跡の公有化と指定範囲の拡大に向けた検討を進めます。

施策の指標

指標	説明	現状値(令和 6 年度)	目標値(令和 12 年度)
山王塚古墳普 及事業累計参 加者数(人)	現地説明会、毎年開催の最新 遺跡発表会等、山王塚古墳の 周知イベントの累計参加者数	42	280

※保存活用計画：個々の国指定文化財などを対象に、所有者・管理団体等が作成する保存・活用の考え方や具
体的な取組の内容を定めた基本的な計画。

施策の柱

(2) 地域の歴史や伝統文化の継承

細施策

①地域の歴史遺産の「発見」

■ 現状と課題

- 未指定文化財も含む歴史遺産を身近に感じてもらうため、遺跡発表会やフィールドワーク等の取組を行っています。また、これらの保存・活用を地域総がかりで図るため、「川越市文化財保存活用地域計画」（以下、地域計画）を策定し、令和5年12月に文化庁長官から認定されました。
- 地域計画に基づき、歴史遺産の保存・活用に向け、さまざまな取組主体と連携して推進することが必要です。また、市内各地域の未指定文化財を含む歴史遺産を周知するため、公民館や博物館等と協力し、市民に向けた講座を継続して実施することが必要です。

■ 細施策の方向性

担当課

文化財保護課

- 「川越市文化財保存活用地域計画」に基づき、未指定文化財を中心とする歴史遺産を学ぶ講座を実施します。
- 遺跡発表会や史跡の見学会を通じて発掘調査の成果等を公開します。また、指定文化財等についても公民館や博物館等と協力し、市民向け講座を継続して実施していきます。

細施策の指標

指標	説明	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
職員を講師として派遣した件数(件)	公民館や博物館等が主催・共催する講座へ、文化財保護課職員の講師派遣件数。	20	25

※文化財保存活用地域計画：市町村における文化財の保存・活用に関する基本的なアクションプランで、市町村が目指す目標や中長期的に取り組む具体的な内容を記した計画。

②地域の歴史・伝統文化の継承に向けた学びの促進

■ 現状と課題

- 学校からの要請で、地域の歴史や伝統文化に関する学習のため、学校への市職員の講師派遣や博物館での学習機会の提供を行っています。
- 地域の歴史・伝統文化について、多くの市民等の理解を深め興味、関心を高めていくため、地域との協力体制の構築が必要です。

■ 細施策の方向性

担当課

文化財保護課・博物館

- 地域の活動に対し、講座等の支援や、これまでの調査に基づく成果等を通した資料の提供について検討を進めます。
- 児童生徒が地域の歴史・伝統文化への興味・関心を高め、誇りや愛着をもって大切に継承する心を育むため、学校への出前授業や見学会及び博物館による積極的な学習の機会の提供を図ります。

細施策の指標

活動指標	説明	現状値(令和6年度)	令和12年度
郷土学習を受けた学校数	文化財保護課・博物館職員による出前授業と博物館内授業を受けた延べ学校数	文化財保護課・博物館職員による出前授業と博物館内授業を年間120校以上実施します。	